

研究区分	教員特別研究推進（教育推進）
------	----------------

研究テーマ	特定行為研修を受講する看護師の臨床判断力の育成に関する研究				
研究組織	代 表 者	所属・職名	看護学部・教授 看護実践教育研究センター	氏名	荒井 孝子
	研究協力者	所属・職名	看護学部・実践センター・教授	氏名	林 みよ子
		所属・職名	看護学部・実践センター・教授	氏名	富安 眞理
		所属・職名	看護学部・実践センター・講師	氏名	根岸 まゆみ
		所属・職名	看護学部・実践センター・講師	氏名	加納 江理
		所属・職名	看護学部・実践センター・助教	氏名	中岡 正昭
	発 表 者	所属・職名	看護学部・実践センター・講師	氏名	根岸 まゆみ
講演題目					
特定行為研修を受講する看護師の臨床判断力の育成					
研究の目的、成果及び今後の展望					
【目的】本研究では、看護師の特定行為研修において臨床判断力を育成するプログラムを導入し、経時的に観察・評価することにより、研修生個々の成長を可視化するための教育的指標の基礎とすることとした。 【方法】看護実践教育研究センターが運営する 2025 年度看護師特定行為研修事業（在宅慢性期研修）において、特定行為研修の必修科目である臨床推論の科目について、新たに看護師の臨床判断に関する授業を導入した。具体的にはラサターループリックを用いた臨床判断の授業演習プログラムを導入し、研修生におこりうる臨床判断能力の変化について経時的に評価するものである。研修生の自己評価、教員、修了生による他者評価を行い、評価の一致点、相違点を共有し、有機的なフィードバックを行うこととした。 まず看護師特定行為研修を開始した1ヶ月以内にベースラインとなる臨床判断モデルについての基礎知識と演習（60分×2コマ）、7月にRuth Tadesse氏の特別講義（同時通訳：120分）を実施した。そのうえで、特定行為研修の臨床実習に出る前の7月に在宅における臨床判断シミュレーション演習（60分×2コマ）を行い、すべての臨床実習が終了した1月に臨床判断シミュレーション演習アドバンス（60分×2コマ）を実施した。 シミュレーションでは、在宅療養者とその家族の生活状況ならびに健康状態もシナリオをベースに臨床判断シミュレーション演習を実施した。研修生はあらかじめ提示された症例に基づき、看護ケアを決定するための臨床判断のプロセスを実践した。教員および他の研修生はラサター臨床判断ループリック（Lasater Clinical Judgment Lubric: LCJR）に基づいて評価を行った。修了後に実践者および評価者による相互デブリーフィングを行った。なお、デブリーフィングではLCJRを活用し、研修生が自己の臨床判断過程を振り返ることを重視した。 【結果】7月にRuth Tadesse氏のオンライン特別講義では、アンケート結果から肯定的な評価を得ることができた。さらに、8月の実習前と1月の実習終了後の臨床判断シミュレーション演習におけるデブリーフィング内容を比較すると、ラサターループリックを用いた研修生の自己評価が適正化され、教員、修了生による他者評価と一致する傾向が認められた。演習後のアンケート（受講生4名）では、LCJRを用いた振り返りにより自己の強みが明確になったと回答したものが3名、「どちらとも言えない」が1名であった。また、今度の実践や自己研鑽に活用できると感じたものは全員であった。 【まとめ】看護師特定行為研修事業において、本プログラムは在宅慢性期研修に取り組む看護師の臨床判断能力を可視化・育成する科目として、今後継続していくことが求められる。とくに、ループリックを活用した多面的評価とデブリーフィングは、自己評価の精度向上および臨床実践への応用可能性を高める教育的手法として有用であることが示唆された。					